

光葉ワーキングクラブメールマガジン



<2023年5月号>

191号 2023.5.08 配信

最近よく耳にする「チャットGPT」は、国内外で教育への影響が指摘されています。学習者がパソコンやタブレットを一人1台使う授業も取り入れられ、教育現場の変化は加速しつつあります。

先日、学校司書と会ったときに「図書室を使った授業が減少し、子供たちが本を手にとって調べる機会がなくなりつつある。」と話していました。子どもたちだけでなく、社会全体が賢くAIを活用できる力を養わなければならないと思います。(中学校高等学校教職員ネットワーク)

■同窓会だより

- ◇2023年度 第1回 同窓会委員会 5月11日(木) 11:00～
- ◇2023年度 第2回 本部委員会 5月12日(金) 11:00～
- ◇全国支部長会 5月20日(土) 14:00～16:30 (ハイブリット形式で開催)
- ◇第50回光葉同窓会総会・懇親会 5月21日(日) 10:30～14:30
- ◇東京都多摩24支部を設立しました

4月16日(日)大学本部館大会議室にて、東京都で七つ目の新支部設立総会を行いました。
新支部についてはホームページをご覧ください。

- ◇支部会開催予定 ※支部会詳細は、同窓会事務局にお問い合わせください。
 - 5月28日(日)石川県支部 5月28日(日)新潟県支部
 - 6月 3日(土)長崎県支部 6月 4日(日)福井県支部 6月 4日(日)栃木県支部
 - 6月11日(日)群馬県支部 6月11日(日)千葉県支部 6月11日(日)秋田県支部
 - 6月11日(日)岩手県支部 6月24日(土)宮城県支部 6月24日(土)世田谷支部
 - 6月25日(日)東京都東南7区支部
 - 7月2日(日)大阪府支部 7月2日(日)香川県支部

◇光葉同窓会をイメージするクリアファイルの絵柄デザインを募集中

募集締め切り 2023年5月13日(土)必着

応募の詳細は、ホームページもしくは同窓会事務局にご確認ください。

■学園だより

◇図書館特別展 与謝野晶子の世界 講演会開催

テーマ：「時代を拓く—与謝野晶子の六十三年六ヶ月」

講師：山梨県立文学館 館長 三枝 昂之氏

日時：5月13日(土) 14:30～16:00(14:00開場) 場所：8号館6階オーロラホール

事前予約不要で、当日どなたでも参加可能です。ぜひご来場ください。

[講師紹介] 三枝 昂之氏 早稲田大学政経学部卒業 歌人・文芸評論家

歌誌「りとむ」主宰。日本歌人クラブ会長。宮中歌会始の選者。



図書館 HP

広げよう光の葉

大野 直子 さん 2022年 大学院 言語教育・コミュニケーション専攻(博士前期課程)卒

「Wyoming の小さな大学から」

私は約 30 年間教育関連の企業に勤務した後、そこで始めた研究を形にしたいと、2020 年に大学院博士前期課程に入学しました。現在同窓会長である金子朝子先生のご指導をいただき、修士論文をまとめることができました。

現在は、博士後期課程に在学し、博士論文の着手にあたり、日本以外の言語教育を体験したいと考え、フルブライト奨学金 FLTA プログラムでアメリカに留学しています。このプログラムはアメリカの大学で日本語を教えながら、自分も授業を取ることができるというものです。

日本語を教えるのは全く初めてですが、Wyoming にある Northwest college (勤務先 Northwest College Visiting Exchange Instructor-Japanese) という小さな大学で、周りの先生方や元気な学生さんたちに支えられながら過ごしています。

しかし、この 1 年間博士後期課程での学びや研究から遠ざかることがないようにアメリカ滞在中も博士課程の授業をオンラインで受講しています。時差で眠たい日もあるのですが、私にはこれが双方にとって良かったと感じています。

大学院の授業で得た学びを次の日の自分の授業で活かすことや自分の授業の中で沸き起こる疑問を大学院の授業で質問し、一緒に考えていただいたりできます。

また、新しい単語や文法事項を伝えることに目がいってしまいがちですが、大学院の授業の中で読む論文などを通して自分の日本語の授業で学んだ内容を使えるコミュニケーション活動を多く取り入れるように心がけることができます。

英語話者の学生さんたちがマイナー言語である日本語を効果的に身につけるためには、Motivation を保ち、楽しんで学習することが大切だと思いました。最初に日本語の興味がどこにあるのかを一人ひとりに聞きました。日本の文化やアート（もちろんアニメも含まれますが）への興味が高かったため、文化に触れられる内容を授業に多く取り入れました。また、日本語ネイティブの方と会話したいという希望も多かったため、地域に住む日本人や日本からの留学生を教室に招いて授業を行いました。さらに昭和の先生のお力添えをいただき、オンラインで昭和女子大の学生さんとのコミュニケーションタイムも実現できました。その甲斐あってか学生たちは、とても積極的に学習しています。学内ですれ違ふと、笑顔で覚えてたての日本語で一生懸命話しかけてくれます。その姿を見ると、胸が熱くなります。

私の任期は残すところわずかですが、帰国してもここで経験した言語教育と大学院での学びを胸に、より広い視野を持ち博士後期課程での研究に邁進してまいります。

私の学びをいつも応援してくださる昭和女子大の先生方に、心から感謝しています。【End】



おりがみワークショップで
アメリカと東チモールの学生と

メールマガジンを読んだのご感想、ご意見をお寄せください